

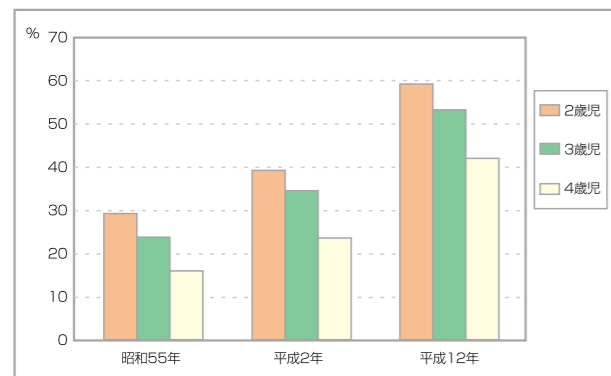
幼稚園での 指導と 年間指導計画例

東京都教育庁指導部
義務教育特別支援教育指導課

1 幼稚園の実態と指導

近年の幼児の育ちについては、基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下しているなどの課題が指摘されています。特に、基本的な生活習慣については、就寝時間が遅くなっており、10時以降に寝る幼児の割合が、2、3、4歳児どの年齢でも増えています(図1)。中でも、幼稚園に入園間近である2歳児の就寝時間を見ると、10時以降に寝る幼児の割合が、1歳6ヶ月や3から6歳の幼児に比べて多いというデータもあり(図2)、幼児が幼稚園に入園し

図1) 10時以降に寝る子どもの割合の経年変化(2歳児、3歳児)



【幼児健康度調査報告(H12年度)】社団法人日本小児保健協会より

てから早寝早起きのリズムができるまで、しばらく時間がかかることがうかがえます。

また、幼児の育ちを支える家庭の教育力の低下も指摘されていることから、これらの課題を改善するために、幼稚園は、家庭との連携を図り指導を行うことが重要です。

(1) 幼稚園の生活

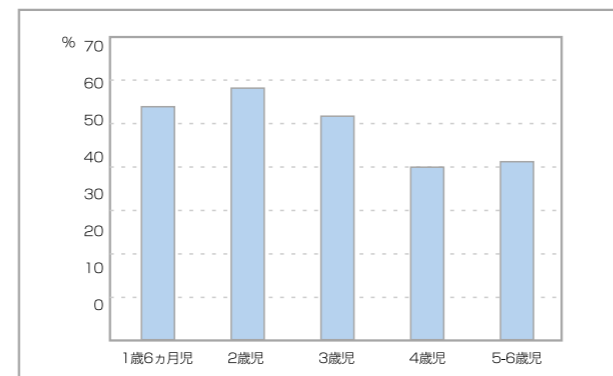
幼稚園は、教育課程にかかわる教育時間は4時間が標準となっています。昨今、預かり保育なども進んでいるため、一概には言えませんが、幼稚園に通う幼児は保育所に通う幼児に比べて家庭で過ごす時間が長いと考えられます。また、お弁当を持参する幼稚園や保護者が幼稚園まで送り迎えをするなどの幼稚園もあり、幼稚園にいても家庭とのかかわりが密接にあります。

(2) 基本的な生活習慣を身に付けるための幼稚園での指導内容

幼児は、十分な睡眠、バランスのよい食事、全身を使った活動と休息などの生活の流れの中で、幼児にとって健康な生活のリズムを身に付け、自立の基礎を培っていくことが重要です。幼稚園生活においては、保護者にも幼児に健康な生活リズムを身に付けることの大切さを伝え、家庭での生活の仕方等について理解を促し、家庭との十分な連携を図る必要があります。

また、身の回りを清潔にし、食事、排泄などの生活に必要なことを自分自身で行うことができるようにするこ

図2) 10時以降に寝る子どもの割合



とが大切です。

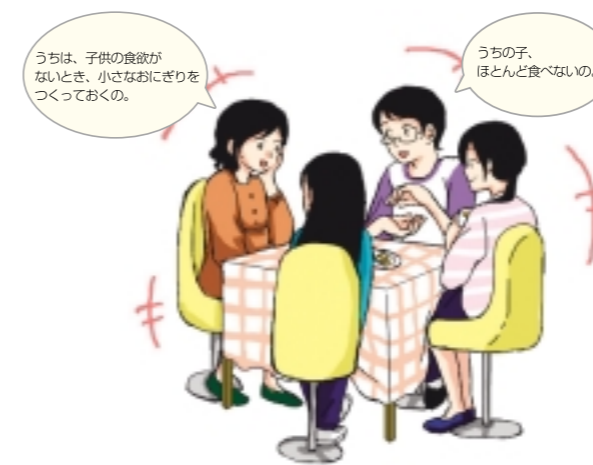
さらには、集団生活の場であるので、教師や友達と生活の場を整えて片付ける、みんなで食事の準備をし、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをするなど、生活する仲間と気持ちよく過ごすためのルールの必要性を知り、守ろうとする気持ちをもてるようにしていくことも重要です。

(3) 幼稚園での指導方法

幼児が、幼稚園だけでなく家庭でも基本的な生活習慣を身に付けられるように、保護者にも、基本的な生活習慣の重要性を知らせる機会を設定することが重要です。また、毎日通う幼稚園であるからこそ、幼児や保護者に対して年間を通じて計画的に指導を行うことができます。教師は、家庭での幼児の生活の実態をとらえ、十分に配慮し、いずれ小学校へ就学することも考慮しながら、日常の指導を充実させていく必要があります。

幼稚園において幼児に基本的な生活習慣を身に付けさせるために、以下のような方法が考えられます。

- ① 幼児への指導
- ② 保護者への指導
- ③ 幼児と保護者と一緒に行う指導
- ④ 配布物の活用
- ⑤ 掲示物の活用



2 指導事例

(1) 幼児への指導

幼児に食事前の時間などに、保育室で、絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等を活用して、清潔にすることや食事をきちんととること、規則正しい生活をする大切さなどについて指導する機会をもちます。絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材を用いることにより、幼児は内容を理解しやすくなり、話の内容に親しみをもち、自分のことと置き換えて生活習慣を身につける大切さを実感することができるようになります。



<ペープサートや紙芝居などの活用>

(2) 保護者への指導

保護者を対象に登園後や降園前などの時間を活用し、医師や看護師などによる講演会を行ったり、保護者会や懇談会のような形式で、保護者同士が生活の中での悩みや工夫を話し合ったりして、規則正しい生活習慣を身に付けるための手だてを知ることができるようにします。保護者同士話し合う機会を設けることにより、保護者が「自分だけが悩んでいたわけではなかったんだ」という子育てへの不安感を解消したり、保護者同士、互いに相談し合える関係が生まれ、子育ての楽しさを感じたりすることができるようになります。

(3) 幼児と保護者と一緒に行う指導

幼児と保護者がホールなどに集まり、歯科医師、栄養士、医師、看護師などから、幼児の健康を保つための生活習慣、清潔の保ち方、食の栄養指導を受ける。幼児と保護者とが一緒に歯の磨き方を教えてもらったり、食事を親子で作ったりするなど、親子で活動を見たり、体験したりすることによって生活習慣を身に付ける重要性を実感をもって感じ、幼児も保護者も意識を高めていけるようにします。



3 年間指導計画例

学期	内 容 (例)				
	① 幼児への指導	② 保護者への指導	③ 幼児と保護者と一緒に行う指導	④ 配布物の活用	⑤ 掲示物の活用
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ○早起き、早寝をしよう、朝ごはんを食べよう <ねらい> ・早起き早寝をすることで、元気に遊ぶ力が出ることを知らせる。 ・朝、食事をすることで、体温が上がり楽しく遊ぶ力が出ることを知らせる。 ○お弁当を食べよう <ねらい> ・手を洗う、うがいをするなど、清潔を保つ大切さを知らせる。 ・みんなで「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをするなど、集団で過ごすためのマナーを知らせる。 ○野菜を植えよう <ねらい> ・食べ物に対する興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会の開催 <ねらい> ・早起き早寝をすることの意味を知らせる。 ・朝食をとることにより脳の働きが高まることを知らせる。 ・生活習慣を身に付けるための方法を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子の触れ合い遊びを交えた講演会 <ねらい> ・親子とともに話を聞いたり、実践方法を学ぶことで、意識を高めたり、楽しく習慣が付くようにする。 (例) 歯科指導など ○保育参観・参加の実施 <ねらい> ・集団の中での子供の実態が分かるようにする。 (活動例) ・お弁当参観、野菜の栽培の参加参観 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○お弁当の準備やお弁当の様子などについて <ねらい> ・家庭にお弁当について、幼稚園でのやり方や様子を知らせることで、幼児だけでは難しいことを、家庭でも行ってもらい、幼児が自分でできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活指導の教材 ○指導風景の写真 ○植物の栽培を行っている写真 <ねらい> ・幼児に指導したことを家庭に啓発することで、家庭での意識も高める。
二学期	<ul style="list-style-type: none"> ○好き嫌いをなくご飯を食べよう <ねらい> ・体を作る栄養素を知らせる。 ○体を動かし、体力をつける大切さを知ろう <ねらい> ・運動会などの行事を通し、体を動かすことの大切さを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会・講習会の開催 <ねらい> ・幼児にふさわしい食事の在り方について知らせる。 ・幼児期に食事の作り方、栄養の取り方を知らせる (活動例) ・調理実習 	<ul style="list-style-type: none"> ○講習会の開催 <ねらい> ・運動会等の行事を生かし、親子で楽しく体を動かす楽しさ、体を動かす習慣を身に付ける方策を知らせる。 (活動例) ・親子でのリズム ・親子体操 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○食事と体の関係 ○体づくりのための生活習慣の見直し <ねらい> ・幼稚園での生活指導場面を知り、家庭への意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養指導の教材 ○行事や保育活動の写真 <ねらい> ・幼児が、みんなで学んだことを振り返ったり、意識を保てるようにする。
三学期	<ul style="list-style-type: none"> ○風邪をひかないようにしましょう。 <ねらい> ・手洗いやうがいなど、自分の身の周りを清潔にすることの意味や大切さを知らせる。 ○進級や就学に当たって生活を見直そう <ねらい> ・進級・就学を意識させ、早起き早寝の重要性や好き嫌いをしない、自分のことは自分でするなどの基本的な生活習慣を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会・懇談会などの開催 <ねらい> ・進級や就学にあたって、保護者としての心構えをもち、子供の生活について、見直す気持ちをもつ。 (例) ・卒園生の保護者を招き、相談する機会をもつ ・小学校の教員を招き、小学校での生活、小学校就学までに身に付けておかななくてはならないことを聞く機会をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育参加・参観の実施 <ねらい> ・子供の実態を知ること、進級、就学に向けて、家庭で取り組むことへの意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○風邪予防のための生活習慣や食生活の見直し <ねらい> ・幼児の健康管理についての注意と啓発を図る。 ○進級・就学にあたっての心構え <ねらい> ・進級・就学に向けて、家庭で取り組んでほしいことについて周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手洗いやうがいなどの啓発を図る教材 ○正しい姿勢が分かる絵や写真などの教材 <ねらい> ・幼児が、自ら取り組もうとする意欲を高めるようにする。

(4) 配布物の活用

園だより、学級だより、学年だよりなどの家庭への配布物を通して、基本的な生活習慣について幼稚園で幼児に指導したことを知らせます。また、そのときの幼児の反応、幼児の意欲の変容なども知らせ、家庭でも幼稚園で指導したことを連続して行ってもらえるように啓発します。

また、箸やスプーン、フォークの持ち方、お弁当包みの結び方など、保護者に具体的にやり方を伝えることも必要です。

(5) 掲示物の活用

登園、降園、保育参観、保育参加などの機会に、幼稚園の保育室や廊下、壁面に指導に活用した教材、指導を行っている様子が分かる写真を貼り、教師が幼稚園で指導した内容や方法が分かるようにして、家庭で話題にしたり、実践したりしてもらえるようにします。

4 おわりに

幼児は幼稚園生活において、教師との温かい人間関係のもと、適切な援助を受けることで、「外から帰ったら、手を洗おう」「食事の前には机をきれいにふこう」などの生活上必要なことを自ら行おうとする気持ちももてるようになっていきます。家庭での生活リズムについて考慮し、家庭と連携を取りながら、無理なく進めていくように配慮しながら、幼児が健康に生活を行っていくことができるよう援助していくことが大切です。

